

設計調書 : VIII 仮設構造物詳細設計

仮設構造物詳細設計調書（土留工・支保工）（1 / 6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査技術者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図)	(ボーリング図)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 土の種類は次のとおり。 ①砂質土 ②粘性土 N>5 ③粘正土 N≤5 2. ボーリング図の出典を記入すること。 3. 水位を明示すること。 4. 設計地盤面を明示すること。 5. 土留杭の施工方法を明示する。 6. 近接する地中，地上支障物件を明示する。 7. 切梁設置時の予掘深さを明示する。</p>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
	(平面図)																																																									

仮設構造物詳細設計調書（土留工・支保工）（2 / 6）

項 目			設 計 結 果		備 考		
			計 算 値	使 用 値			
土留工（自立式・支保工式）	親杭	土	根入長 ^{※1}			※1 1.5m以上（岩盤の場合別途）	
			断面寸法 ^{※2}			※2 H-300以上	
		留方	応 力 度				
			支 持 力				
		杭等	最大変位				
			土留板	断面寸法 ^{※3}			※3 3.0cm以上
	応 力 度						
	鋼矢板方式等 <small>（柱列式土留含む）</small>	根入長					
		断面寸法 ^{※4}				※4 III型以上（鋼矢板の場合かつ市街地の場合）	
		応 力 度					
最大変位 ^{※5}					※5 30cm以内（鋼矢板の場合）		
支保工	腹起し 段目	間 隔 ^{※6}			※6 垂直3.0m程度以下、頂部より1m程度以内（無覆工の場合を除く）		
		断面寸法 ^{※7}			※7 H-300以上		
		応力度及び安全度					
	切はり 段目	間 隔 ^{※8}				※8 水平5.0m以下、垂直3.0m程度以下	
		断面寸法 ^{※9}				※9 H-300以上	
		応力度及び安全度					
	火打ち	断面寸法				(注 ¹): 次の計算ケースより決定されたものを選ぶ。 (a) 掘削完了時 (b) 最下段切はり設置直前 (c) 撤去時 (d) 盛替時	
		応 力 度					
	中間杭	間 隔				(注 ²): 次の計算ケースより決定されたものを選ぶ。 (a) (つりあい深さ) × 1.2以上 (b) ボイリングに対する必要長 (c) ヒーピングに対する必要長 (d) 3.0m以上	
断面寸法							
支 持 力							
特記事項					(注 ³): 「建設工事公衆災害防止対策要綱」による。		

仮設構造物詳細設計調書（締切工）（3 / 6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査技術者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物
	(断面図)	(ボーリング図)
		(平面図)

区分	層厚	N	r	c	φ	種類
I						
II						
III						
IV						
V						
VI						
VII						

(注) 1. 土の種類は次のとおり。
 ①砂質土
 ②粘性土 N>5
 ③粘正土 N≤5
 2. ボーリング図の出典を記入すること。
 3. 水位を明示すること。
 4. 設計地盤面を明示すること。

仮設構造物詳細設計調書（締切工）（4 / 6）

項 目		設 計 結 果		備 考		
		計 算 値	使 用 値			
締切工	自立式	チャンネルの式	根入長 ^{※1}		^{※1} 仮想地盤面 + π / β 又は $2.5 / \beta$ ^{※2} Ⅱ型以上 （公衆に係わる区域においてはⅢ型以上）	
			断面寸法 ^{※2}			
			応 力 度			
			最大変位 ^{※3}			^{※3} 自立高の3%以内
		モーメント釣合法	根入長 ^{※4}		^{※4} （つりあい深さ）× 1.2以上 ^{※5} Ⅱ型以上 ^{※6} 自立高の3%以内	
			断面寸法 ^{※5}			
			応 力 度			
			最大変位 ^{※6}			
	二重幅締切工	設計対象水位	仮締切天端高			
			締切幅	セン断変形破壊		
				滑 動		
				基礎地盤の支持		
		鋼矢板	根入長 ^{※7}			^{※7} 受動モーメント = 安全率 × 主働モーメント 又は、3.0m以上で、どちらか大きい方 ^{※8} Ⅲ型以上
			断面寸法 ^{※8}			
			応 力 度			
		引張材	間 隔			^{※9} 最小28mm
材 質						
断面寸法 ^{※9}						
応 力 度						
腹起材		断面寸法				
		応 力 度				
遮水効果		浸透路長				
	特記事項					

仮設構造物詳細設計調書（路面覆工・仮橋工）（5 / 6）

業務名			
構造物名		受注者名	
所在地		照査技術者	
施工箇所		管理技術者	
事務所名		作成年月日	

[設計調書は、類似構造物（同条件、同タイプ）のうち代表的なものについて記入する。]

構造物名	代表名	類似構造物																																																								
(断面図)	(ボーリング図)	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>層厚</th> <th>N</th> <th>r</th> <th>c</th> <th>φ</th> <th>種類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>I</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>II</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>III</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>IV</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>V</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VI</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>VII</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>(注) 1. 土の種類は次のとおり。 ①砂質土 ②粘性土 N>5 ③粘正土 N≤5</p> <p>2. ボーリング図の出典を記入すること。 3. 水位を明示すること。 4. 設計地盤面を明示すること。 5. 土留杭の施工方法を明示する。</p> <p>6. 近接する地中，地上支障物件を明示する。 7. 切梁設置時の予掘深さを明示する。</p>	区分	層厚	N	r	c	φ	種類	I							II							III							IV							V							VI							VII						
区分	層厚	N	r	c	φ	種類																																																				
I																																																										
II																																																										
III																																																										
IV																																																										
V																																																										
VI																																																										
VII																																																										
	(平面図)																																																									

仮設構造物詳細設計調書（路面覆工・仮橋工）（6 / 6）

項 目		設 計 結 果		備 考		
		計 算 値	使 用 値			
路面覆工	設計荷重（対象車輛）				※1 L/400（Lは支間）以下，2.5cm以下	
	覆工板寸法					
	受	断面寸法				
		応力度				
		たわみ※1				
	桁受け	断面寸法				
		応力度				
	支持杭	断面寸法				
		応力度				
		支持力				
仮橋工	設計荷重（対象車輛）				※2 L/400（Lは支間）以下，2.5cm以下	
	幅 員					
	支 間					
	覆工板寸法					
	主	断面寸法				
		応力度				
		たわみ※2				
	横	断面寸法				
		応力度				
	橋脚	断面寸法				
応力度						
支持力						
特記事項						